

令和7年度 学校評価報告書（目標設定 **実施結果**）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月19日実施)	総合評価（3月25日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①論理的な思考力を養い、主体的・対話的で深い学びを実現する指導をする。</p> <p>②教育課程の実施状況を評価し、その改善を図る。</p> <p>③プログラミング教育を通して論理的に考え、自ら課題解決できる力を育成する。</p>	<p>①知識や技能の資質向上に繋がるICT機器等を効果的に活用した学習活動を推進する。</p> <p>③「物事を論理的に考える」ことに重点を置き、生徒の能力を育成する。</p>	<p>①指導と評価の一体化、およびICT機器の利活用を目指した職員研修を計画し推進していく。</p> <p>③情報機器を利活用しながら各教科の授業の中にプログラミング教育の要素を取り入れる。</p>	<p>①教科目標を踏まえて、ICT機器を適切に活用し、生徒による授業評価の項目6・9が昨年を上回る事ができたか。</p> <p>③「生徒による授業評価」のうち「授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた」の肯定的な回答の割合が昨年度を超えたか。</p>	<p>①項目6及び9は昨年同様3.2と昨年度と比較して増減は見られなかったものの、ICTを活用した校外での個別最適な学習の充実化を図ることができた。</p> <p>③「生徒による授業評価」の左記の項目の肯定的な割合が、昨年度87%から今年度89%と向上した。</p>	<p>①今後も数値の向上を目指し、さらなる個別学習の最適な在り方を再検討する。</p> <p>③プログラミング教育を意識した授業づくりを、研究授業等とおして各教科間でさらに共有していく必要がある。</p>	<p>①ICT機器を活用した授業改善や不登校対応の取組は評価できる。今後は教科間での実践共有を深めながら、取組の一層の充実を図る必要がある。</p> <p>③様々な取組を実践している点は評価できる。その一方で、先進校視察等で得たことをどのように活かすかが課題である。</p>	<p>①数値に表れないが取組については、一定程度の評価ができる。今後は現状を把握して、より一層の充実が必要である。</p> <p>③数値目標を上回った点について評価できる。今後は、これまでの取組をどのように活かしていくかが課題である。</p>	<p>①不登校生徒の対応について、校内体制について再検討する。</p> <p>③数値目標達成の要因を分析し、新たな改善策を検討し成果の最大化を図る。</p>
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①生徒情報の全職員での共有化を、教育相談コーディネーターを中心としてはかり、教育相談体制を充実させる。</p> <p>②学業との両立に留意し、部活動の適切な運営に努める。</p>	<p>①生徒情報を全職員で共有し、担当学年以外の生徒に対しても適切な対応ができるようにする。</p> <p>②生徒とのコミュニケーションを活性化させ、生徒一人ひとりに配慮した指導・支援に努める。各部活動の顧問間での情報共有を徹底し、部ごとに活動の偏りが出ないよう留意する。</p>	<p>①生徒情報の共有化のために、生徒情報交換会を年に3回、職員会議とは別に設定し、時間を確保して開催する。</p> <p>②「部活動指導ガイドライン」に基づく適切な部活動運営を徹底し、生徒が明確な目的意識を持って取り組める環境を作る。部活動と学業の両立に関する調査を実施し、各顧問で共有することで部活動と学業のバランスを図る。</p>	<p>①生徒情報交換会が定期的で開催されたか。臨時のケース会議等が適切に開催されたか。</p> <p>②部活動総点検のアンケート調査で「目標や練習の目的を意識して、活動している」「部活動と勉強の両立」「部活動の状況に満足」それぞれの項目の結果が8割を超えたか。</p>	<p>①全職員による生徒情報交換会を5、7、12月の年3回を開催し、生徒の対応について共有をすることができた。また、職員会議とは別日に設定したことにより時間を確保することができた。</p> <p>②アンケート調査で「目標や練習の目的を意識して活動している」が90%、「部活動の状況に満足」が86%と目標の8割を超えたが、「部活動と勉強の両立」は74%で未達となった。</p>	<p>①生徒情報交換会の情報が多岐にわたり、教員の情報の整理が難しくなっている。情報を精査するため方法を模索していきたい。</p> <p>②部活動と勉強の両立に不安を抱えている生徒が3割弱いる中で、各部によって意識の偏りも出ている。学校全体の課題として受け止め、年間休養日の設定とのバランスも考えながら、部活動運営を計画していきたい。</p>	<p>①生徒の情報交換会を定期的で開催して情報共有することは評価できる。一方で、情報が多岐に渡り、情報の整理が困難になるので、課題設定法工夫や情報の精査方法を検討する必要がある。</p> <p>②満足している状況に一定の評価ができる。その一方で、学業との両立に不安を感じている生徒も見られるので、今後は休養日の設定やバランスに配慮しながら運営の改善が必要である。(再掲)</p>	<p>①生徒の情報交換のために時間を確保し情報共有することは評価できる。一方で、情報の整理のために、情報の精査方法を検討する必要がある。</p> <p>②満足している状況に一定の評価ができる。その一方で、学業との両立に不安を感じている生徒も見られるので、今後は休養日の設定やバランスに配慮しながら運営の改善が必要である。(再掲)</p>	<p>①オンラインツール（スプレッドシートや情報共有プラットフォームなど）の活用を検討する。</p> <p>②生徒の状況を鑑みて、年間休養日の設定とのバランスも考えながら、部活動運営を計画する。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月19日実施)	総合評価(3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<p>①生徒が主体的に進路を開拓できるような仕掛けをし、変化の早い社会に柔軟に対応できるような能力を育む。</p> <p>②生徒自ら進路について考えるための情報を、教員が生徒より先回りして支援できるような、進路に関する教員のスキルアップをめざす。</p>	<p>①生徒が自主的に学習に取り組むようにするためのキャリア教育に関する講演会や、コンテツツの有効利用を促すための手立てをこざる。</p> <p>②年内入試や、総合型選抜に関する情報を職員で共有し、生徒に発信できるようにする。</p>	<p>①通常の授業を重視しつつ、生徒の学習に対するコンテツツの利用実践例や利用方法を提示し個々の能力・意欲に応じて主体的に学習に取り組めるようにする。</p> <p>②大学で拡大しつつある総合型入試に関する情報を収集し、必要に応じて説明会を実施し職員間での共通理解を図り、生徒に還元する。</p>	<p>①生徒の学習に関するコンテツツ利用頻度が上がったか。</p> <p>②多様な入試制度に対する生徒・保護者の理解度をあげて、3学年の三者面談の時には、個々の進路計画を立てることができたか。</p>	<p>①1学年は最初の到達度テストで、正答率が例年に比べてかなり低く、課題配信・追試等をおこなって、コンテツツの利用率が他の学年より、爆発的にあがり、成績にも反映された。</p> <p>②保護者対象の進路講演会を年に2回おこない、多様な入試方式に対する生徒・保護者の理解度アップにつながり、個々の進路計画の考察に役立った。</p>	<p>①全学年にわたって、今年度の1年生におこなったレベルの課題配信・模試振り返りをおこなう。</p> <p>②来年度も引き続き多様な入試形態への生徒・保護者の理解を深める講演会等を実施し、進路計画を早期に、かつ綿密に考えていけるようにする。さらに、増加傾向にある総合型試験の対策を練る。</p>	<p>①1学年で利用率や成績向上が見られた点について評価できる。今後は振り返りを含めた活用促進にいかにかが課題である。</p> <p>②多様化する入試制度に対応するために保護者の理解を深める支援をしている点は評価できる。今後は実績等を考慮しながら、より実践的な進路支援の充実が必要である。</p>	<p>①成績の向上等が見られる点について評価できる。今後は振り返りを含めた活用促進にいかにかが課題である。</p> <p>②過去の実績等を踏まえ、生徒及び保護者に対する支援内容を再検討する。</p>	
4	地域等との協働	<p>①様々な場面で地域及び外部機関と連携した教育活動を展開し、生徒の学びを深める。</p> <p>②防災意識を高める機会を提供し、地域に信頼される学校作りを推進し、地域に貢献する。</p>	<p>①PTAと協力して講演会などを開催し、生徒及び保護者に情報を提供する。</p> <p>②地域や関係機関と連携し防災教育を行う。</p>	<p>①保護者や生徒のニーズを踏まえ、講義内容や講師を決定する。</p> <p>②防災訓練を2回設定し、地域住民の参加を促す。</p>	<p>①内容理解に関するアンケートを行い、おおむね肯定的な回答を得ることができたか。</p> <p>②防災訓練を2回実施することができたか。また実践的な内容になっていたか。</p>	<p>①PTA 県西地区幹事校として他校の教育活動の発表や教育講演会を含む大会を企画・運営し、概ね好評だった。</p> <p>②予定通り防災訓練を2回実施した。防災委員による避難経路の説明、避難知識クイズ等も取り入れ実践的な内容を心がけた。</p>	<p>①生徒がより充実した学校生活を送るために、保護者や生徒が参加できる取り組みを検討する。</p> <p>②2回の防災訓練の実施時期が年度の後期になっている現状を見直し、年間計画の中でできるだけバランスよく配置する。</p>	<p>①他校のPTAと連携して取り組んでいる点は評価できる。一方で、PTAへの加入を望まない保護者に対していかにかが課題である。</p> <p>②実践的な取組は評価できる。一方で、危機管理意識をいかにかが課題である。(再掲)</p>	<p>①他校との連携について評価できる。保護者に対してPTA活動をいかにかが課題である。</p> <p>②実践的な取組は評価できる。一方で、危機管理意識をいかにかが課題である。(再掲)</p> <p>①保護者に対して活動内容をさらに分かりやすく伝えるとともにPTA組織の再編成を行う。</p> <p>②地域住民には緊急時の対応を再確認する。生徒には日常生活で、リスクを常に意識させる取組を展開する。</p>	
5	学校管理 学校運営	<p>①教職員の働き方改革を推進し、会議の効率化をはかる。</p> <p>②業務についてはダブルチェックを行い、不祥事防止に努める。</p>	<p>②業務についてはダブルチェックを行い、不祥事防止に努める。</p>	<p>②成績処理、進路業務、入学者選抜等において、作業内容を全職員で確認するとともに、ダブルチェックを徹底して事故防止に努める。</p>	<p>②マニュアルについて情報共有をおこなうとともにダブルチェックを徹底して、事故を未然に防ぐことができたか。</p>	<p>②成績処理、進路関係業務及び入学者選抜等において、マニュアルの情報共有とダブルチェックを徹底して、事故を未然に防ぐことができた。</p>	<p>②今年度は事故を未然に防ぐことができたが、気の緩みが事故につながることで、常に緊張感をもって業務に臨むことが必要である。</p>	<p>②不祥事を未然に防いだ点は評価できる。しかし、気の緩みが重大事故につながるケースもあるので、引き続き緊張感をもって業務にあたる必要がある。(再掲)</p>	<p>②これまで以上に継続して、共通認識や報・連・相を徹底していく。</p>	

